
東京の子供政策に対する国際的視点からの期待

2023年12月25日
こども未来会議（第10回）

大谷 美紀子
国連子どもの権利委員会委員・弁護士

子どもの権利に取り組むようになったきっかけ

- ✓ 1990年に弁護士になり、家事事件に関わる中で、**人権が守られていなかったり、差別に遭っている人がたくさんいる現実**に直面
- ✓ 憲法に書かれているだけでは、人権が現実にも守られることにはならない、差別がなくなるわけではないと感じ、**人権侵害や差別が起きない社会にするには人権教育が重要**だという思いに至った



弁護士1年目。弁護士事務所にて

子どもの権利に係る取組にかける思い

- ✓ 1993年ウィーン世界人権会議で人権教育の重要性が再確認され、ちょうどその年に、私は子どもの権利条約を知った
- ✓ 条約に書かれた**子どもの教育の目的の1つは、人権尊重の育成**にあることに感動
- ✓ すべての人が人権を知り、**人権が尊重される社会をつくる**
第一歩が子どもから始まる
- ✓ また、**子どもの人権を実現するために「子どもの権利委員会」をつくり、定期的に国に条約の実施状況についての報告書を提出させ、委員会が審査し、勧告するという仕組み**を条約で設けていることに興味を持った
- ✓ こうしたことを契機に、人権教育と国連による人権分野の活動を専門的に勉強、**子どもと女性の人権問題に注力**
- ✓ 2017年に日本人として初めて**国連子どもの権利委員会委員に就任し、2021～2023年の2年間は委員長として活動した**



国連・ジュネーブにて

こども未来会議の委員就任に際して

- ✓ 国連の委員会による各国の条約実施状況の審査において、**審査を受けるためにジュネーブに派遣されるのは、国の代表**であることがほとんど
- ✓ しかし、子どもに関わる政策やその具体的な取組は、自治体レベルのものが**多い。自治体レベルで条約の理念を実践していくことの重要性**を実感
- ✓ 日本でも、東京都による子どもの権利実現のための取組は、**国にも影響をもたらす可能性**がある



国際都市東京の取組を世界にも発信し、自治体レベルでの子どもの権利条約の理念実践を活性化させるチャンスになるかもと期待し、東京都の「こども未来会議」に第1回から参加

こども未来会議での議論を振り返って

- ✓ 子どもたちは刻々と成長し、次々と新たに子どもたちが生まれている
- ✓ 時間をかけて丁寧に議論することも大事だが、議論ばかりして行動に移さない風潮に陥るべきではない
- ✓ 知事自らが「こども未来会議」に参加して、有識者の意見を聴き、良い意見はすぐに取り入れて実行しようとする意気込みを感じた
- ✓ 「こども未来会議」での子どもたちとの対話も実現した

政策・施策への反映



こども向け予算書



東京都こどもホームページ



子どもとの対話
(第8回会議 2023年3月27日)

東京都こども基本条例の制定と子供政策連携室の発足に期待

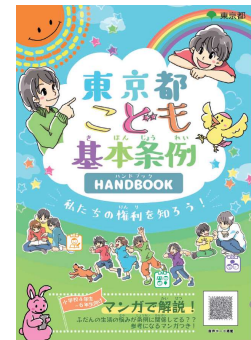
- ✓ こども未来会議が創設されてから第10回までの間に東京都こども基本条例が制定(2021年)され、子供政策連携室が発足(2022年)
- ✓ コロナ禍で、子どもたちは、人生の基盤を形作る大事な時期に、学校の閉鎖や経済的な困窮など、様々な困難に直面
- ✓ このような状況下で、子どもに焦点を当て、子どもを中心に都政全体を捉え直していく都の姿勢に期待

条例解説動画 制作中 2023年12月現在

条例を学ぶワークショップ^o 開催 2023年 8 月



2023年 3 月 東京都こども基本条例ハンドブック 発行



2022年 4 月 子供政策連携室 発足

2021年 4 月 東京都こども基本条例 施行

コロナ禍

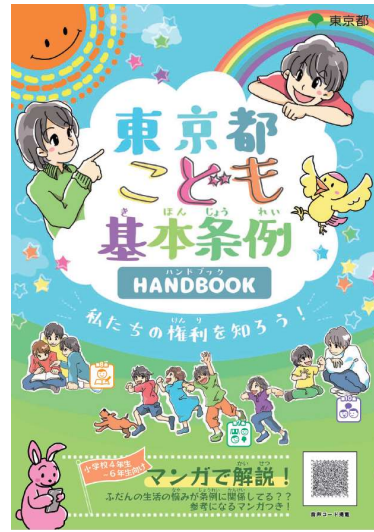
2020年 9 月 第 1 回こども未来会議 開催



こども基本条例ハンドブック・解説動画作成 子ども参加の実践

- ✓ 東京都こども基本条例が制定され、子供政策連携室が発足して、最初に取り組んだ重要な仕事は、**条例の周知のためのハンドブック及び条例解説動画の作成**
- ✓ こども基本条例を子どもと親に知らせ、**条例の理念を広めることが大事な第一歩**
- ✓ こども基本条例の制定過程を踏まえると、条例の広報周知に**どこまで子どもの参加を確保できるか**が、試金石

- ・ 条例ハンドブック、条例解説動画の作成に子どもたちが企画段階から参画するプロジェクトに、私も**有識者会議メンバー**として参加
- ・ 大人たちも悩み、試行錯誤しながらだったが、**子どもたちの意見を最大限尊重**することを目指した



こども基本条例ハンドブック・解説動画作成 子ども参加の実践

- ✓ 子どもたちが自ら考え、意見を出し合いながら作ったハンドブックと解説動画は、「東京都が子どもを中心とした都政」というメッセージを具体的に体現するもの
- ✓ ハンドブックと解説動画における子ども参加の取組が、保護者、学校の先生たちをはじめとする子どもに関わる“すべての大人たち”に、「子どもたちをパートナーとして一緒に進めていく実例」として受け取られればと思う
- ✓ ハンドブック・解説動画作りに関わった子どもたちが、活動を通じて、子どもの権利について考え、学び、エンパワーされる機会となったことを願う

令和5年度 条例解説動画の制作

子ども

有識者

クリエイター



◀ 小学校低学年向け

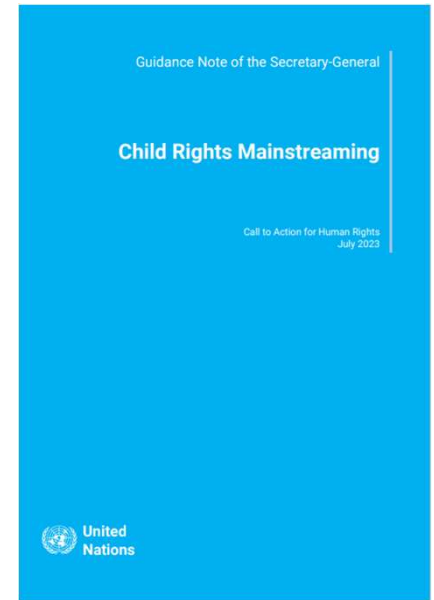
高校生向け▶



三者が対話しながら、動画のテーマやストーリー等を検討

条例の理念をあらゆる政策分野に浸透①

- ✓ 2023年8月、国連事務総長が子どもの権利を主流化していくためのガイダンスノートを発表
- ✓ 子どもは、未成熟で、今でもまだ保護される存在として扱われることが多い
- ✓ しかし、子どもは社会の重要な一員であり、**子どもの権利が守られることで、全ての人の権利が守られ、公正で平和な社会へと変革していく**
- ✓ **子どもの権利の主流化とは、国連のすべての政策・戦略・計画・アプローチにおいて、明示的に、制度的に、持続的に子どもの権利の視点を取り込んでいくことを言う**
- ✓ **子どもの権利の問題を意識されてこなかった分野についても、子どもの権利との関わりを意識し、子どもの権利の視点を活動に取り込んで行くことが求められている**
- ✓ **デジタル環境・気候変動・環境問題**がその具体的な例



「子どもの権利の主流化」に関する
国連事務総長のガイダンスノート



国連子どもの権利委員会
気候変動に焦点を当てた子どもの権利
と環境に関する「一般的意見26」

条例の理念をあらゆる政策分野に浸透②

東京都こども基本条例

2021年4月施行

- ✓ 「子どもの権利条約」の精神にのっとり、子供を権利の主体として尊重し、子供の最善の利益を最優先にするという基本理念を明確化

都の子供政策

子どもの権利の主流化

- ✓ 子どもの権利の問題を意識されてこなかった分野についても、子どもの権利との関わりを意識し、子どもの権利の視点を活動に取り込んで行く

世界の潮流

「都政のあらゆる分野において、子どもの権利の視点を取り組んでいくこと」と「子どもの権利の主流化」は軌を一にしている

今後の東京都の取組への期待

- ✓ **子どもの生活に日常的に関わる大人たちへの普及啓発**
子どもの権利が保障され、子どもが能力を最大限に発揮するために、日常的に関わる大人たちに子どもの権利を理解、実践してもらうことが大切
- ✓ **国と刺激しあえる関係**
2023年4月にこども基本法が施行され、こども家庭庁が発足
東京都と国が相互に刺激しあうこと、また、そうした波動が全国の自治体にも広がっていくことを期待
- ✓ **国内外の都市とのネットワーク構築**
子どもの権利の実現に取り組む国内外の都市と交流し、都市のネットワークを率先して作っていただきたい